夢を乗せて30年　そして、これからも―

2012.6.23　東北新幹線・白石蔵王駅が開業30周年

1_東北本線開業30周年記念号「やまびこ235号」が10時42分に通過
2_仙南２市７町の首長などが甲冑武者に扮して仙南地域の発展を願い勝ちどき　3_１日駅長を務めた鈴木舞香さんが10時53分発「Maxやまびこ129号」を見送り　4_白石市消防団伝統階子乗り隊による演技。10年前の開業20周年の時も同じ場所で披露
5_ミニ新幹線を楽しむ来場者　6_第二幼稚園の園児による新幹線の歌

6月23日、東北新幹線・白石蔵王駅開業30周年の記念イベントが同駅で開催されました。昭和57(1982)年６月23日、大宮－盛岡駅間の開業に合わせて白石蔵王駅も誕生。以後30年、首都圏と仙南地域をつなぐ大動脈として活躍してきました。記念式典で白石蔵王駅の東海林正年駅長は「今後、新幹線は時速320キロでの運転となり、東北と首都圏がさらに近くなる。地域活性化のためにも全力を尽くしたい」とあいさつ。風間市長も「新幹線はまさに夢の乗り物。白石蔵王駅は仙南の玄関口として、情報発信基地としていきたい」と祝辞を述べました。

この日は、仙南２市７町の首長など30人が甲冑武者に扮してテープカットを行った後、来場者約300人が30周年記念号などをホームで見送り。また、白石高校３年の鈴木舞香さんが１日駅長を務めたほか、第一幼稚園・第二幼稚園・西保育園の園児によるミニコンサートや大鷹沢子ども太鼓の演奏、ミニ新幹線乗車なども行われ、多くの人出でにぎわいました。

ホタルの里で深まる交流

白川・福岡でホタルまつり

6月23日、白川小奥環境資源保全隊(佐藤勇二代表)主催の「第２回石神社ホタル鑑賞のつどい」が白川小奥地区の石神社周辺で開催されました。この日は、地区内外から親子連れなど約40人が参加。石神社で手話を交えた歌や紙芝居「ホタルくんとカエルさん」を鑑賞して交流を深めた後、土手川まで歩いて移動し、数十匹のゲンジボタルが飛び交う幻想的な光景を鑑賞しました。

また、６月30日・７月１日の２日間、福岡蔵本の薬師堂地区では、白石薬師堂ホタルの里を守る会(半澤勇三郎会長)と白石温泉薬師の湯共催の「第10回ホタルまつり」が開催されました。開会式には、市内外から親子連れなど約200人が参加。薬師の湯でよさこい走乱白石城の皆さんによる踊りなどを楽しんだ後、同地区のサロン・サンサンの皆さんが製作した「花灯路」と呼ばれる灯籠の幻想的な光にそって、通称「おがる石」周辺まで歩いて移動し、数十匹のゲンジボタルを鑑賞しました。

「ホタルをはじめ多くの生物が生息できる地域をつくりたい」「イベントを通してさまざまな交流を深めたい」と開催された両イベント。参加者は「きれいだね」「癒やされた」などと口々に言葉を交わし、夏の夜を楽しんでいました。

1_白川小奥地区「第２回石神社ホタル鑑賞のつどい」
2_福岡蔵本薬師堂地区「第10回ホタルまつり」

人権の心を育む

市内各地で人権啓発の取り組み

1_小原小学校「人権教室」　2_南保育園「人権の花運動」
3_ふれあいプラザ「人形劇鑑賞会」

6月～７月にかけて、人権擁護委員の皆さんによる人権擁護啓発活動が行われました。６月15日は「人権教室」が小原小学校で行われ、人権擁護委員が約30人の児童にいじめをテーマにした絵本の読み聞かせなどを行いました。６月29日は「人権の花運動」が南保育園で行われ、５歳児約20人と人権擁護委員などが「みんなが優しい気持ちになれますように」と、思いを込めて植え付けたマリーゴールドのプランターを、福祉作業所やまぶき園にプレゼント。また、７月３日は「人形劇鑑賞会」がふれあいプラザで行われ、市内保育園の園児や保護者など約150人と人権擁護委員が合唱などでふれあった後、人形劇「ピーターパン」を鑑賞し、人権尊重の心などを学びました。

各会場の子どもたちは、人権擁護委員の皆さんとのふれあいを通して「命の大切さ」や「思いやりの心」を楽しみながら学んでいました。